

## 全国労働組合総連合結成大会宣言

一九八九年一月二一日

今日ここに、私たちは熱い思いのなかで、日本の労働組合の全国中央組織として全国労働組合総連合（全労連）を結成しました。

いま日本は、世界でも有数の経済大国といわれ、大企業の儲けは史上最高の記録を毎年ぬりかえていきます。しかし、私たち労働者の生活は、残業なしでは暮らしていけない低賃金、過労死に象徴される長時間・過密労働、資本の専制支配のもとでの苛酷な人減らし「合理化」、以上に高騰した土地と住宅、病気や老後の不安、若者から青春を奪う激烈な受験競争、とめどなく進む公害と環境破壊、侵される言論の自由、自衛隊の増強と米軍基地の強化、核戦争の不安など、「豊かな

さ」とはほど遠く、職場・地域には、平和で民主的な・人間らしい生活を求める切実な要求が満ちあふれています。

全労連は、何よりもまず、この切実な要求を実現するために結成されました。

戦後四十数年の今日、ゆれ動く国際情勢のもとで、日本の社会は、経済的にも政治的にも多くのはげしい矛盾に直面しています。日米経済摩擦の激化と参議院選挙での自民党の歴史的敗北はその象徴です。

財界と自民党は、こうした矛盾の中でその支配力を維持するために、日米安保体制をいっそう強化しつつ、「二一世紀戦略」と称して「経済構造調整政策」

をおしすすめています。それは、日本のアメリカへの追隨をさらに深めることであり、犠牲の一切を労働者と国民におしつけることにほかなりません。当然、労働者と国民の抵抗は増大します。この抵抗を押さえこむために、財界と自民党は、議会制民主主義をふみにじって政治反動を強化し、とりわけ、野党勢力の分断・取り込みと労働組合の弱体化・体制内化に力を注いでいます。

今日同じこの日、一九五〇年以来日本の労働組合運動に一時期を画した総評が、解体吸収されて発足する新「連合」に、財界と自民党がエールを寄せるのはこのためです。

「連合」は、反共主義と労使協調路線によって、たかう労働者と労働組合を選別・排除した組織です。そして「連合」は、財界と自民党の「二一世紀戦略」を基本的に支持する立場を明らかにしています。

全労連は、「連合」路線に断乎として反対し、日本の労働運動の新たな発展をめざして結成されました。

全労連は、思想・信条の違いをこえて労働者の生活と権利を守るためにこそ生まれたという、労働組合の原点に立って、

一、「資本からの独立」「政党からの独立」「一致する要求での行動の統一」の三原則を堅持します。  
二、いかなる政党の支持も排除せず、組合員の政治活動・政党支持の自由を完全に保障します。

三、「みんなで決めて・みんなでたたかう」という、労働組合民主主義の徹底をはかります。

四、産業別労働組合と都道府県別の労働組合とを対等平等の構成単位とし、産業別のたたかいと地域のたたかいを調整して、全国的な統一闘争を組織します。

五、組合員の利益だけでなく、労働組合に所属しない三千万人をこえる労働者の生活と権利を守るたたかいを重視し、労働組合への組織化に力を注ぎます。

六、組織の大小にかかわらず互いに意見を尊重しあい、要求実現のためにたたかうすべての労働組合

を結集して、日本の労働戦線の統一をめざします。

七、労働者を中心に、農民や中小業者をふくめたすべての働く人びとを結集して、国民的規模の統一闘争を組織するために力をつくし、革新統一戦線の樹立をめざします。

全国労働組合総連合の結成にあたり、私たちは、百年にわたる日本の労働運動の積極的なたたかいの伝統をひきついで、すべての働くものの人間らしい生活を實現するために、日本の輝かしい未来のために、そして世界の恒久平和のために、全力をあげてたたかうことをここに宣言します。